

新たな国重要文化財が誕生！

～小樽港北防波堤・南防波堤・島防波堤～



廣井 勇像 伊藤長右衛門像

写真提供：小樽開発建設部

防波堤が重要文化財に

100年以上もの間、荒波から小樽港を守ってくれている小樽港防波堤施設（北防波堤・南防波堤・島防波堤）が、令和8年1月15日の官報告示により、正式に国の重要文化財に指定されました。同施設は、日本で初めてコンクリートを使って築いた外洋防波堤であり、当時の最高水準の日本人技術者による土木構造物で、日本の港湾の発展を語る歴史的価値が高いことなどが評価されました。これで小樽市内の重要文化財（建造物）は、「旧日本郵船小樽支店」、「旧手宮鉄道施設」、「旧三井銀行小樽支店」と合わせて4件となります。

二つの胸像

旧日本郵船小樽支店前の運河公園に二つの胸像があるのをご存じですか？
一つは北防波堤を建設した初代小樽築港事務所長の廣井勇と、もう一つは南防波堤と島防波堤を建設した第三代同事務所長の伊藤長右衛門です。二つの胸像はもともと小樽港を一望できる小樽公園に

設置されていましたが、平成11年に有志によって、より港に近い現在地に移設されました。

港湾工学の父と呼ばれた廣井が計画・設計した北防波堤は、長さ1,289mで、コンクリートブロックが使用されました。

廣井は、コンクリート製の構造物が国内にほとんど無かった当時、厳冬の北海道に適したコンクリートを開発しようと試行錯誤の末、外国の文献を参考にセメントの強度を増すため、火山灰を混ぜ、自らシャベルを取ってコンクリートブロック作りを行いました。さらに、猛烈な波の力に耐えるため、20tもあるようなブロックを斜めに積むといった、当時、スリランカのコロナボ港で行われていた世界最先端の工法を採用するなど、世界から注目された第1期小樽港修築工事を明治30年から明治41年までの11年間に完成しました。

次に、廣井の教え子で職場の後輩でもある伊藤が、北防波堤の延伸工事（長さ419m）と南防波堤（同915m）・島防波堤（同916m）を築造する第2期小樽港修築工事を明治41年から大正10年までの13年間にわたって行いました。特

に島防波堤はブロック積からコンクリートの巨大な箱（ケーソン）を海に沈めて建設する工法に変えて行われました。当時、ケーソンは海上の浮きドックで製作されましたが、伊藤は陸上で製作し、

斜路で海中に滑り落とす進水方式を世界で初めて実用化するなど、その後の築港工事に大きな影響を与えました。
小樽港で行われた防波堤建設は、築港技術の発展を語るうえで世界的に記念される工事だったと言えます。

防波堤建設までの背景

近代小樽港の歴史は明治2年の手宮海官所（現在の税関のような役所）設置に始まり、その後、北海道の物流拠点として歩を進めましたが、波が海岸に直撃し、船の沈没や棧橋等の破壊をしばしば引き起こすことが問題となっていました。そのような中、明治25年、当時、北海道庁長官だった※北垣国道が防波堤の必要性を時の政府に訴え、これを受けて井上馨内務大臣の小樽視察が明治26年に行われました。その後、明治29年の帝国議会において工事費全額を国費で支出することが決定され、国家プロジェクトとして北防波堤の建設が始まりました。当時、全額国費で港を建設する工事は小樽港が初めての事であり、小樽港にかける

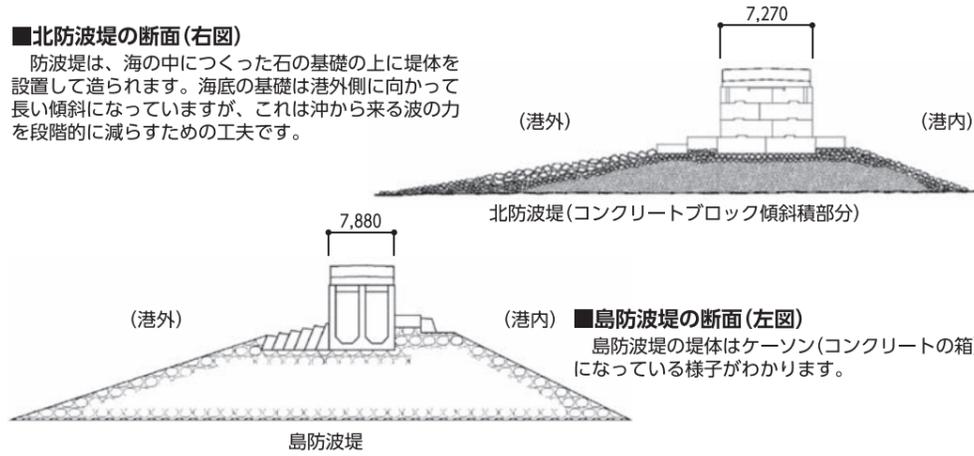
国の意気込みを感じさせるエピソードです。
※北垣は、坂本龍馬とも交流のあった幕末の志士で、戊辰戦争後に北海道開拓使に任じ、京都府知事なども歴任しました。静屋通りは北垣の号「静屋（せいおく）」に由来します。

4つの重要文化財の意義

旧日本遺産「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽」は、「民の力」によって北日本随一の商都となった物語ですが、まちの基盤として、まず明治13年に小樽に進出した三井銀行など金融機関により資本の流通が促され、明治15年の幌内鉄道の全通や明治18年の日本郵船小樽支店の開業により物流が発展し、これに人々の旺盛な活動が加わって小樽を大きくしてきました。そして明治30年から始まった防波堤工事の最中に小樽港は国際貿易港に指定され、さらなる発展が約束されました。奇しくも小樽の街の立役者が揃って重要文化財にその名を連ねたわけですが、このたびの防波堤の重要文化財指定を契機として、重要文化財を活用した小樽の魅力発信を進めていきたいと思えます。

北防波堤の断面(右図)

防波堤は、海の中につくった石の基礎の上に堤体を設置して造られます。海底の基礎は港外側に向かって長い傾斜になっていますが、これは沖から来る波の力を段階的に減らすための工夫です。



島防波堤の断面(左図)

島防波堤の堤体はケーソン(コンクリートの箱)になっている様子がわかります。

北海道開発局小樽開発建設部

小樽港湾事務所の「みなとの資料コーナー」では防波堤建設に関する資料などが展示されています。

お問い合わせ先
小樽港湾事務所
小樽市築港2番2号
電話013412216131



また、小樽市総合博物館運河館ではトピック展「小樽港防波堤施設―港を築く、港を守る―」（小樽市教育委員会と小樽港湾事務所の共催）が3月29日（日）まで開催されています。